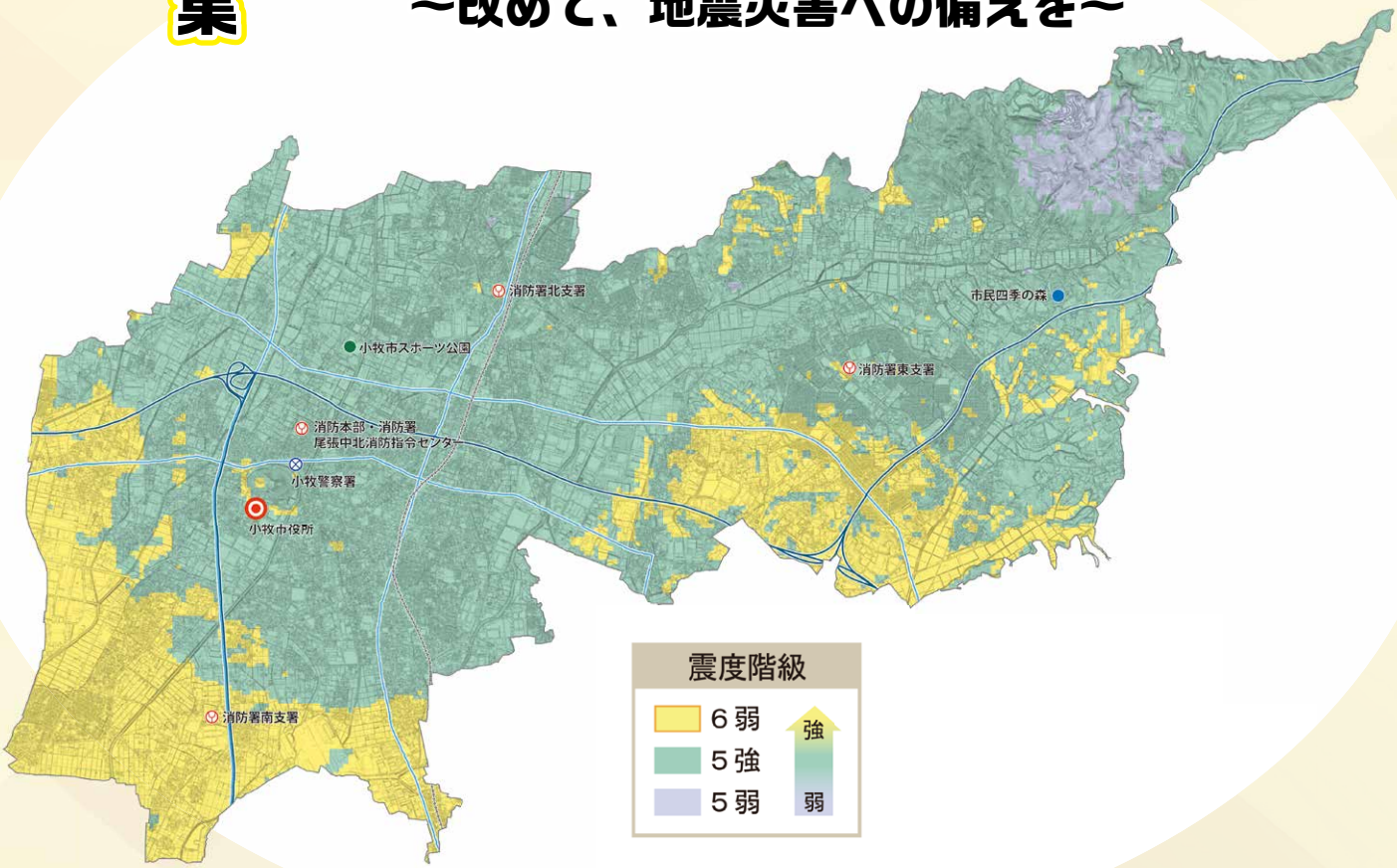
特集　いま、地震が起きても大丈夫!?

～改めて、地震災害への備えを～



南海トラフ地震で予想される震度を示した地図

問合先　防災危機管理課（☎76 - 1171）

令和6年1月1日16時10分ごろ、石川県能登半島で最大震度7の大地震が起き、多くの家屋、ビル等が倒壊したほか、津波や火災等により甚大な被害が発生しました。

この地震により自宅が倒壊し、避難所での生活を余儀なくされた方も多く発生しました。

地震が起こった際、避難所へ避難するということは、皆さんもすぐに頭に浮かぶのではないでしょうか。

ほかにも、付近の状況が安全で、自宅が無事なら、そのまま自宅で過ごす「在宅避難」というのも選択肢の一つです。

地震に備え、備蓄などの準備をするとともに、危険を見極め、災害時にどこで過ごすのかをあらかじめ考えておきましょう。

小牧市防災ガイドブックと一緒に地震への備えをご確認ください。

備え

災害用備蓄品の準備

日用品
- □ 懐中電灯・予備の電池
- □ 携帯ラジオ
- □ 貴重品
- □ 救急医療品
- □ 燃料、工具
- □ 防寒具
- □ 簡易トイレ

医療機器など、特殊なものは災害時に入手が難しくなります。
例：メガネ、入れ歯、生理用品、ベビー用品、介護用品 、常備薬など

□ 食料
缶詰やレトルト食品だけでなく、アレルギー食など、それぞれの事情に合った食品を１週間分以上用意しておきましょう。

□ 飲料
１人１日3リットルが目安です。

食料・飲料の備蓄にはローリングストックを活用！

災害に備えて備蓄した食料が気付いたら賞味期限が切れていることにならないようにおすすめしたいのが「ローリングストック法」です。

これは、いつも使っているレトルト食品や缶詰等の長期保存可能な食品を少し多めに買っておき、日頃食べた分だけ買い足していく方法です。

詳しくは、「防災ガイドブック」28ページをご覧ください。

マイ・タイムラインの作成

マイ・タイムラインとは住民一人ひとりのタイムライン（防災行動計画）であり、災害時に自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え命を守る避難行動のための一助とするものです。

ハザードマップを用いてどのような避難行動が必要か、またどういうタイミングで避難することが良いのか自ら考え、更には家族と一緒に日常的に考えることは大事なことです。

詳しくは、「防災ガイドブック」10、11ページをご覧ください。

▲マイ・タイムラインのイメージ

防災情報メールの登録

市では、次の情報をメール配信しています。情報収集に活用できますので、ぜひご登録ください。

- 市からの緊急情報（災害対策本部の設置や避難所開設、避難指示、被害の状況など）
- 警報情報（特別警報、大雨・洪水・暴風警報の情報）
- 地震情報
- 土砂災害情報（地域限定）
- 河川氾濫情報（地域限定）

登録方法①
二次元コードを読み取り、登録する。

登録方法②
「t-komaki@sg-p.jp」へ空メールを送り、メールに従い登録する。

住まいの耐震化

昭和56年5月31日以前に着工した住宅が対象の補助などです。

■木造住宅の無料耐震診断

住宅が地震に対してどのくらいの強度があるか無料で診断します。

■木造住宅耐震改修費補助　上限100万円

地震に対する耐震性の向上を目的として実施する補強工事で、判定値を1.0以上とする耐震工事に対し補助します。

■木造住宅除却費補助　上限20万円

耐震性のない住宅を除却する場合の補助です。

■耐震シェルター・防災ベッド設置費補助　上限30万円

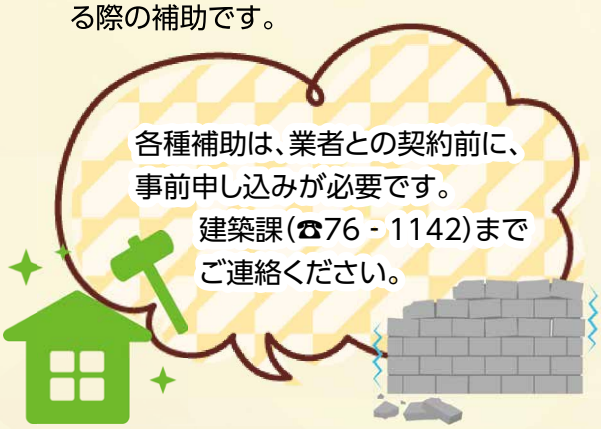
耐震性のない住宅に耐震シェルターなどを設置する場合の補助です。

ブロック塀の安全対策

道路に面している高さ1メートル以上のブロック塀や石塀等で、地震により倒壊するおそれのあるものが対象です。

■ブロック塀等撤去費補助　上限20万円

道路に面する塀を1メートル未満に撤去する際の補助です。



＼覚えておきたい大事な知識／

携帯トイレの使い方

■携帯トイレで安心を

大きな地震が発生すると下水管の破損や下水処理施設の故障によりトイレが使用できなくなります。

避難所には仮設トイレや携帯トイレが備蓄されていますが、数に限りがあり、仮設トイレが追加支援されるまでに**4日以上**かかる場合があります。

そのため、各家庭でも携帯トイレを備蓄しましょう。

携帯トイレは、既存の便器に**「便収納袋」**を被せて使用するもので、水なしで使える優れものです。

抗菌性凝固剤が付属しているものを選んでいただければ衛生面も安心です。

災害時でも、いつも使っているトイレで、気持ちよく用を足せる。それだけで安心を得ることもできるのです。

▲地震発生直後に被害を受けたトイレの様子(例)

■どのくらい準備するの？（4人家族の場合）

家族の人数分に合わせて携帯トイレを準備しましょう。

家族4人、3日分、1日5回と想定した場合、4×3×5=**60回分用意**しておくと良いと思います。

防災用備蓄倉庫内にある「便収納袋」と使い方

▲使い方を動画で確認できます

発災時の行動

地震が発生した後は、自分の命を守るため、適切な行動をとらなければなりません。しかし、被害を目の当たりにすると、瞬時に判断し、行動することは難しいです。

発災後、パニックにならずに適切に判断するためには、事前の準備とシミュレーションが重要です。

「避難所」か「在宅避難」か？

■自宅が無事なら「在宅避難」を

被災後、生活するにあたり自宅が無事であれば「在宅避難」をしましょう。

「在宅避難」をするためには備蓄食料や簡易トイレ等の生活必需品が必要となりますので備蓄しましょう。生活に必要な備蓄品は最低でも3日分、できれば1週間分以上備えると良いです。

また、「在宅避難」の方も「避難所」で支援物資を受け取ることができます。

もし、「在宅避難」ができない場合は「避難所」へ行きましょう。「在宅避難」をしていても、自宅の倒壊などの危険を感じたら、「避難所」などに避難してください。

地震時の心得10ヶ条

1. 枕元に避難グッズ（厚手の靴下やスリッパ、懐中電灯など）を準備しておく。
2. 足元に注意。割れた窓や照明器具の破片に気を付ける。
3. 運転中に地震が起きたら、路肩に停車して、連絡先を見えるところに貼り、徒歩で避難する。
4. スーパーやデパートでは、ショーケースなどの割れやすいものから離れる。
5. 海岸では、津波などの発生を想定して、安全な高台や避難地を目指す。
6. 狭い路地やブロック塀に注意。ブロック塀や自動販売機は転倒の恐れがある。
7. 地域ぐるみで協力し合って応急救援の体制を構築する。
8. 山崩れ、がけ崩れに注意。居住地の自然環境を把握して二次災害防止の心がけを。
9. マイカーでの避難は危険なうえ緊急車両の障害になりえるため、避難は徒歩で行う。
10. 正しい情報を聞く。間違った情報に惑わされず、的確な行動をする。

避難の前にすべきこと

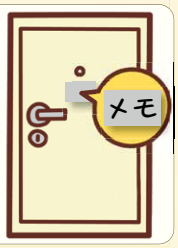
二次災害を防止するため、避難する前に自宅ですべきことを確認しておきましょう。

空き巣や、火災の延焼を防ぐため家の戸締りを忘れない。

壊れたり倒れた電化製品に通電して火災が発生することを防ぐため、電気のブレーカーを落とす。

忘れずに、ガス・水道の元栓を閉める。

探しに来た人に無事を伝えられるように、玄関に「全員無事です」といったメモを貼る。



感震ブレーカーの活用もご検討ください

感震ブレーカーは、地震の揺れを感知したときに、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。

分電盤に取り付けるタイプやコンセントタイプ、簡易タイプなどがあるので、ご自宅の状況に合わせて設置できます。